

専教寺 仏婦だより



令和元年7月9日 発行

仏縁・法縁を大切に

住職 釋 龍生

先日、「RSK地域スペシャルメッセーシ」という番組で、「墓は消えるのか」と題して、墓じまいや墓などの将来的なあり方を特集していた。昨今、「墓じまい」ということが、社会の話題として世間を賑わせている。しかし、これらの事柄は、同時に日本人の生活の背景に、先達が精神的な支えとして伝え育み続けてきた先祖への敬いや葬送文化の衰退に繋がりがねない行為であると、その番組では警鐘を鳴らしていた。その番組の中で、日本で活動するイスラム教の兵庫県神戸市にある外国人墓地の状況を放映していた。イスラム教では、墓じまいという事柄が全く行われていないということである。それは、信者は血の繋がりが無くても皆が家族であり、よって無縁墓など元来存在しない、というのが理由である。血の繋がりが無くとも先祖を敬い、身内の墓はもちろんのこと、他人の墓参りや墓掃除もするのだという。

浄土真宗の開祖、親鸞聖人の語録を弟子がまとめた間書「歎異抄」に、

一切の有情はみなもって世々生々の父母兄弟なり

という言葉がある。命あるものはすべてみな、これまで何度となく生まれ変わり死

に変わりしてきた中で、父母であり、兄弟、姉妹であった、という意味である。先の言葉は続けてこう述べられる。いづれもいづれも、この順次生に仏に成りてたすけ候べきなり

この世の命を終え、浄土に往生してただちに仏となり、どの人も皆、救わなければならぬ、と。墓じまいという事は、時代の潮流が何においても加速する昨今、さまざまな事情において、社会が積極的に許容する行為なのかもしれない。しかし縁ある人々を救うと仏さまとなられた先祖が、最愛の人を思う眼差しで見守りながら、「ありのままのあなたを救う」と常に願われている。来る時代の流れに呼応する時、仏である先祖を敬う心、その救いのはたらきに感謝する心を忘れず、浄土真宗のみ教えをしっかりとし人生の支えとしてほしい。

参考「浄土真宗聖典 歎異抄（現代語訳）」 本願寺出版社

専教寺仏教婦人会総会

会長 石井 町子

五月一日 平成から令和へと代替わりいたしました。テレビに映し出される新天皇皇后両陛下のお姿を拝見し、いよいよ令和の世になったことを実感いたしました。

さて、専教寺仏教婦人会の総会も令和元年を迎え、去る六月九日（日）午前十時から開催され、住職様が出席くださり、ご挨拶をいただきました。開会式において、会員物故者追悼法要も行われ、総会行事も順調に進みました。その後、場所を移動して会食となり、なごやかに語り合い、楽しいひと時を過ごしました。



々が描かれた格天井絵は、専教寺にとっての宝なのだと改めて感じました。そして、あいにくの雨天でしたが、臥龍松もすっかり見学して帰られました。

喜んで帰ってくださり、安心しました。そして、当日は、専教寺の仏教婦人会の方が接待を手伝ってくださり、大変助かりました。

さて、専教寺仏教婦人会では、無事に総会が終わり、今年度も「新春のつどい」やお寺の行事があります。皆様のご参加をお待ちしております。

中・四国地区仏教婦人会大会に参加して

佐藤 ゆかり

菅原文子さんによる講演「悲しみの中から生き抜く力を（ご縁に生かされて）」を聞きました。菅原さんは、宮城県気仙沼に生まれ、結婚して酒店を営んでいました。二〇一一年の東日本大震災の津波により、家、店舗、義父母を失い、夫は行方不明となりました。被災から一か月半でプレハブ店舗を建てて息子達と営業を再開し、『負けねえぞ 気仙沼』のラベルの酒を販売しました。二〇一六年六月に自宅跡近くで夫の遺体が発見されました。この震災で浄土真宗の方から励まされ、支えられて、浄土真宗の通信教育を受けました。

菅原さんは、話の前に、西日本の大雨による災害のお見舞いの言葉を述べてくださいました。それを聞いた時に、急に涙が出ました。ひとつひとつの言葉は、特に変わった言葉ではなかったけれど、声と話しぶりの中に、本当の慰めの気持ちがかもっていると感じました。痛みを知った人の言葉は心に響くのだと思いました。

話の中の「すっと黒い水が」という声はとても静かな声でした。それが逆に、水が急に増えて逃げる間もなかったその勢いを感じました。

義父母を「どうして助けなかっただろう」、主人の手を「どうして離してしまったんだろう」と繰り返し繰り返し考えながら毎日を過ごし、何も感じられず、泣くこともできなかったという言葉は、戦時中、逃げるときや空襲で親や子と別れ別れになった人たちの体験談と重なりました。

「ご主人が「全身遺体」で見つかった、この「全身遺体」という言葉で、アメリカの9.11テロでの話を思い出しました。崩れたビルから大勢の人の遺体を掘り出し、指一本のDNAから身元を確定していったということです。テレビや新聞には映っていないけれども、ここでも指一本、歯一枚しか見つからなかった人が大勢いたのだ、あるいはそれさえも見つからなかった人もいるだろう。災害の酷さを実感しました。

菅原さんにかけられた言葉は、何気なく出た言葉だったのだろうけれど、慰めにならなかつたり、逆に傷つけられたりした言葉もたくさんあったのでしよう。考えずに出る言葉や行動は、自分の人間性をさらけ出してしまします。人を傷つけることのない、人に親身に寄り添うことが少しでもできる人間になりたいと思いました。



※紙面の都合上、佐藤さんの報告書から抜粋させていただきました。

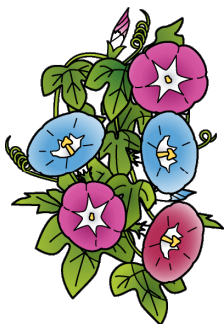
平成三十年七月豪雨災害により被災された皆様に心より
お見舞い申し上げます。

十月に、被災された方々へ、専教寺仏教婦人会から衣
料（パーカー）を送らせていただきました。

お礼状が届きましたので、一部を紹介させていただきます。

先日は心温かい贈り物をありがとうございました。
我が家は住める状態ではありませんが、皆様の心
遣いがありがたく、散歩でもしようかという気持ち
も出てきましたので着させていただきます。感謝い
たします。

この度は専教寺仏教婦人会から衣料品をお送り
いただき、ありがとうございます。少し寒くなつてま
いりましたので、大変ありがたかったです。この度の
水害で自宅二階まで泥水につき、すべての物を失
いましたが、皆様のご支援をいただき、目下自宅復
帰に向けて頑張っております。御礼申し上げます。



仏婦新春のつどい



永代経法要のお斎作り



ダーナ募金

今年の仏婦総会では、ダーナ募金
が、7,837円集まりました。ダー
ナ活動のために大切にに使わせてい
たできます。

多くの方の会費・ご寄付・護寺
会よりの助成金・物資のお届けに
より、仏教婦人会の活動ができて
います。ありがとうございます。